

# 会津戦争一八六八年

八月二十三日

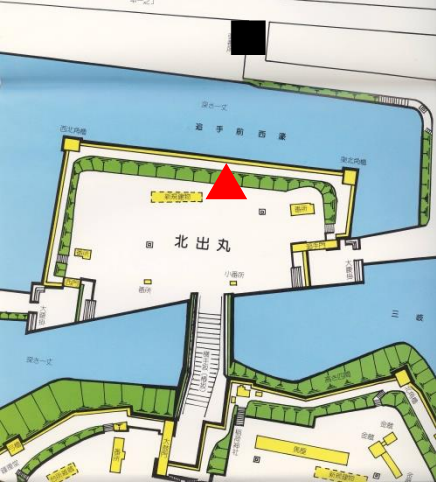
(現在の十月八日)の戦い

北出丸の堀幅は、約三十五メートル、西軍までの距離は、約六十メートルありました。

会津戦争の時、会津藩は、先込め丸弾の「ゲベル銃」「ヤーゲル・ライフル銃」を使用し、西出丸、本丸、伏兵郭の三方から西軍を狙い撃ちしました。八月二十三日、西軍の薩摩藩大山巖(後の夫人が捨松)も重傷となり、三春の天陽医院まで行き傷を治しています。

『会津戊辰戦争』山本(新島)八重は、八月二十三日、夜、正門から刀を差し、ゲベル銃を持ち夜襲に出撃します。また、▲の場所から大砲撃ちました。

『会津戊辰戦争』  
一八六八年九月二十二日、午前八時か一〇時にかけて正門の石橋■の場所に九十センチ×六十センチの縫い合せて作った「降参」の白旗が立てられます。その北で開城式がありました。



## 北出丸の

## 武徳殿

### 日新館の刀術

享和三年(一八〇三)に建てられた会津藩校日新館には、武講があり、軍事奉行と侍大将が講義し、南門両脇の武学寮に道場がありました。

刀術は、十四流派あり

- ・一刀流(溝口派)、真天流、安光流、神道精武流、太子流、助國流、新陰待舍流、天流、新天流、破東一流、東軍流、左流、山口流小太刀、大道流、
- 教えていた場所は、南門の両脇で、東側に一刀流、真天流、西側に安光流の部屋があり、人気がありました。

### 武徳殿 ▲

#### 旧武徳殿

北出丸に建てられる前の旧武徳殿は、現在の大熊町役場・当時の県立会津中学校(県立会津高等学校)に大正二年、建てられたのが最初です。しかし、昭和二年の二五〇名が参加した春季武道大会中積雪の重みで、建物が倒壊し、一名が死亡、七名が負傷という事故があり、再建されませんでした。

武徳殿は、昭和九年(一九三四)七月十四日に建てられました。敷地は六八〇平米、建築面積は五七六平米です。

大日本武徳会福島県支部若松分会・会



会津剣道界の中心施設です。

津武徳奨励会赤羽佑之(ゆうし)十一名が主となりの寄付金一万八千円で建設します。敷地は、昭和八年九月から二十年間の無料として市が許可したもので、市において必要ある場合は直ちに建築物を取り払い、原形に復して返還すべし」となっています。

今では、年間一万五千人が利用する武道の中心施設となっています。

福島市の武徳殿  
福島市の県庁脇にある板倉神社にあった武徳殿は、昭和二十八年に芦ノ牧温泉の仙峽閣に移築され今でも使用されています。